大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F140310110776	設置等組織名	工学部　情報ネットワーク工学科
大学名	久留米工業大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	福岡	事業計画名	久留米工業大学工学部（情報ネットワーク工学科）の収容定員の増員

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	・令和5年8月　新規科目の担当者、シラバス、学科がカリキュラムフロー作成に着手する。 1-①令和5年10月　学科機能強化による入学定員増（収容定員増）に伴う学生確保の見通し調査に着手する。 （初年度の実施） 1-②令和6年1月　メタバースを用いた教育環境の企画設計に着手する。 ・令和6年3月　総合型選抜における課題発見・解決型高大接続入試区分の予告を行う。	・令和5年8月　新規科目の担当者、シラバス、学科がカリキュラムフロー作成に着手した。 1-①令和5年10月　学科機能強化による入学定員増（収容定員増）に伴う学生確保の見通し調査に着手した。 （初年度の実施） 1-②令和6年1月　メタバースを用いた教育環境の企画設計に着手した。 ・令和5年9月　総合型選抜における課題発見・解決型高大接続入試区分の予告を行った。	令和5年度自己評価　【４】計画を上回って実施している。
令和6年度	1-③令和6年4月　引き続き学科機能強化による入学定員増（収容定員増）に伴う学生確保の見通し調査に着手する。(2年目の実施) 1-④令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についてリーフレットの作成に着手する。 1-⑤令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についてWebサイトの作成に着手する。 1-⑥令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についての説明動画の作成に着手する。 1-⑦令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材育成についてのDMや電子媒体による広報活動に着手する。	1-③令和6年4月　引き続き学科機能強化による入学定員増（収容定員増）に伴う学生確保の見通し調査に着手した。(2年目の実施) 1-④令和6年3月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についてリーフレットの作成に着手した。 1-⑤令和6年3月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についてWebサイトの作成に着手した。 1-⑥令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材養成についての説明動画の作成に着手した。 1-⑦令和6年7月 認可等の前のPR活動として、学科機能強化による新たなカリキュラム・人材育成についてのDMや電子媒体による広報活動に着手した。	令和6年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	2-①令和7年4月　情報教育・研究棟（5号館）実験室の改修工事に着手する。 2-②令和7年4月　新棟講義・多目的活動室の整備に着手する。 2-③令和7年4月　データアナリティクス開発支援室整備に着手する。 2-④令和8年3月　100号館STEAM教育システムを導入する。 2-⑤令和7年4月　学科演習室附帯の情報教育（PBL会議）システム設計に着手する。 **2-**⑥令和7年10月　認可後、学生募集を開始する。総合型選抜において、課題発見・解決型高大接続入試を実施する。 **2-**⑦令和8年3月　整備した各種施設設備の稼働を完了する。	2-①令和7年4月　情報教育・研究棟（5号館）実験室の改修工事を進め、令和8年3月に完了した。 2-②令和7年4月　新棟200号館2階の講義・多目的活動室の整備を進め、令和8年3月に完了した。 2-③令和7年4月　5号館2階にデータアナリティクス開発支援室の整備を進め、令和8年3月に完了した。 2-④令和8年3月　100号館8階にSTEAM教育システムの導入を進め、令和8年3月に完了した。 2-⑤令和7年4月　100号館9階にPBL会議システムの整備を進め、令和8年3月に完了した。 2-⑥令和7年10月　総合型選抜において、課題発見・解決型高大接続入試を実施した。 2-⑦令和8年3月　整備した各種施設設備の稼働を完了した。	令和7年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	3-①**令和8年**　助成事業業務に従事する事務（技術）職員を雇用する。 3-②**令和8年**　100号館STEAM教育システムの安定稼働及びソフトウェア使用による教育環境を保持する。（4年間継続の契約実施） 3-③**令和8年**　リーフレット等印刷物による学科教育内容の広報を行う。 3-④**令和8年**　DMや電子媒体による学科教育内容の広報を継続して定期的に行う。 3-⑤**令和8年**　寄附金、研究費等の外部資金の獲得について、フェーズ３の助成期間終了時までに、 本助成金の申請額170000千円　×　2.5%　＝4250千円を上乗せした水準以上とする。		令和8年度自己評価　リストから選択してください。
令和9年度	（令和8年度に同じ）		令和9年度自己評価　リストから選択してください。
令和10年度	（令和9年度に同じ）		令和10年度自己評価　リストから選択してください。
令和11年度	（令和10年度に同じ）		令和11年度自己評価　リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価　リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価　リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価　リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和7年3月　入学定員20名増（収容定員増）の認可申請予定	令和7年3月　入学定員20名増（収容定員増）の認可申請をおこなった。	
定員減又は 学部等の廃止			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	久留米工業大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
■ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
■ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【企業や自治体と連携した科目の整備・実施】令和3年度から「AI活用演習（選抜クラス）」において、地域企業・自治体と連携したPBLを実施している。令和5年度入学生からは、PBL科目「AI実践プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の受講により、継続して長期間、産業界と連携した地域課題解決型PBLに取り組む。長期インターンシップの制度も整え、PBLを重視したアクティブラーニングを継続・実践する。 【地域の他大学と連携した科目の整備・実施】本学は、MDASHの両レベルでプラス選定された大学として、地域高等教育機関に向けたAI・DS教育を支援している。令和６年度からは、看護学生とともに異分野・異年齢連携で福祉・健康等の課題解決型PBLに取り組む。 【海外大学との連携】令和3年度から実施している、遠隔会議システムを用いたセントラルワシントン大学とのバーチャル留学（AIエンジニアコース）にメタバース・ラボを導入し、AI・DX専門人材育成に向けた、新たなコミュニケーション空間での語学留学を創造・実現する。	【企業や自治体と連携した科目の整備・実施】(申請時の計画通りに進捗)令和7年度は、「AI実践プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」において、地域企業・自治体と連携したPBLを実施した。16テーマ（16の企業・自治体の協力）を設定し、学生78名、教員16名、地域企業・自治体の社会人37名の計131名が参加した。テーマ数、参加者数ともに前年度より増加し、地域連携型PBLの規模を拡大することができた。また、令和7年8月8日に開催したPBL成果報告会には、九州経済産業局、久留米リサーチ・パーク、福岡県工業技術センターをはじめ、連携企業以外の企業・自治体・教育機関（高校・大学等）から100名以上が参加し、本学の地域課題解決型AI教育への関心の高さがうかがえた。 【地域の他大学と連携した科目の整備・実施】(申請時の計画通りに進捗)令和７年度は、聖マリア学院大学、久留米大学、九州大学などの学生もPBLに参加し、他大学との連携をさらに深化させた。特に令和7年度は、福祉・健康分野に関する課題解決型PBLの取り組みが増加し、多様な専門分野の学生が協働する教育環境を構築することができた。 【海外大学との連携】（申請時の計画以上に進捗）セントラルワシントン大学（CWU：海外協定校）とのバーチャル留学（AIエンジニアコース）をより充実させることを目的として、令和７年度は従来の夏季短期集中型（2週間）から、本学の正規科目「上級オーラルイングリッシュ」を核とした長期型（8カ月）のプログラムへと発展させた。大学の15回の講義には、外国人講師5名が参画し、週1コマの語学研修をZoomおよびメタバース・ラボを活用して4カ月間実施した。さらに、その後はPBL研究成果を英語で発表するためのプレゼンテーション演習を対面形式で実施し、3名の学生がCWU主催のシンポジウム「Symposium of University Research and Creative Expression」（May 20–21）においてOral Presentationを行った。短期研修型から長期・実践型への転換により、語学力だけでなく、国際的な研究発表能力の向上にもつながった。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【入学者選抜における科目の見直し】令和7年度からは、入試必修科目の見直しや「課題発見・解決型入試（仮）」を検討する。 【女子学生の確保に向けた取組】女子生徒率が高い鳥栖商業高校や伊万里実業高校と、メタバース・ラボによる協働講義や課題解決型高大接続PBLの実施を今年度から始める計画である。実業系・商業系高校との科目等履修生制度も検討し、連携強化を図る。 【地域の初等中等教育段階の学校との連携】AIプログラミング教室の開催、メタバース・ラボの活用、高大接続授業などで連携する。 【社会人学生の受入れ強化に向けた取組】令和４年度には社会人講座「ロボットマニピュレータの制御とAI画像認識による応用」を開講した。 地域課題解決型PBLでは学生と社会人が協働でAIを用いた課題解決に取り組んでおり、社会人のリスキリングにも繋がっている。 【留学生の受入れ強化】メタバースを活用した留学生との交流を検討するとともに、教育、生活、就職面での留学生支援体制を整える。	【入学者選抜における科目の見直し】(申請時の計画通りに進捗)令和7年度入試から総合型選抜に高大接続教育プログラム修了者を対象にした「課題発見・解決型高大接続入試」を新たに実施し、当該入試区分の受験者は年々増加している。入試必修科目については、数理・AI・データサイエンス教育を見据え数学を必修としている。 【女子学生の確保に向けた取組】(申請時の計画通りに進捗)女子中高生の理系進路選択支援プログラムに参画し、女子中高生向けの企業見学会や実験体験会など各種イベントを実施した。 【地域の初等中等教育段階の学校との連携】(申請時の計画通りに進捗)広川町の小学生を対象にしたAIプログラミング教室を実施した。広川町教育委員会と連携協定を結び、連携を深めている。オープンキャンパスや、高大接続教育(1日大学生)にメタバース・ラボを積極的に活用していき、本学の魅力化を図った。 【社会人学生の受入れ強化に向けた取組】(申請時の計画通りに進捗)地域課題解決型PBLでは学生と社会人が協働でAIを用いた課題解決に取り組んでおり、社会人の参加者も年々増えている。大学院修士課程については社会人コースを設け、博士課程の新設の認可申請も行った。 【留学生の受入れ強化】(申請時の計画通りに進捗)セントラルワシントン大学とのバーチャル留学において、メタバース・ラボを有効活用するなど、国際交流で利用している。留学生については、令和８年度の留学生学生募集に力をいれ、令和8年度は３名が入学した。	

大学名	久留米工業大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	既存学部の収容定員の増加
学部学科名	工学部 情報ネットワーク工学科（学士（工学））

					R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況			選定	届出	認可	増員															
大区分	小区分	項目		単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員		人	90	90	90	110															
		編入学定員		人	4	4	4	4															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員		人	90	90	90	110															
		入学者数		人	91	83	80	102															
		女子学生数		人	12	4	15	7															
		社会人学生数		人	0	0	0	0															
		留学生数		人	0	0	0	1															
	その他の学期	入学定員		人	-	-	-	-															
		入学者数		人	-	-	-	-															
		女子学生数		人	-	-	-	-															
		社会人学生数		人	-	-	-	-															
		留学生数		人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)		人	90	90	90	110															
		入学者数(B)		人	91	83	80	102															
		女子学生数		人	12	4	15	7															
		社会人学生数		人	0	0	0	0															
		留学生数		人	0	0	0	1															
		入学定員充足率（B/A）		倍	1.01	0.92	0.89	0.93															
	収容定員等	収容定員(C)		人	338	348	358	388															
		編入学定員		人	4	4	4	4															
		在籍者数(D)		人	397	384	362	363															
		編入学者数		人	6	13	7	4															
		収容定員充足率（D/C）		倍	1.17	1.10	1.01	0.94															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数		人	91	91	93																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数		人	8	7	10	7															
		授業科目の単位数		単位	79	77	72	55															

大学名	久留米工業大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	320	320	320	340															
		入学者数	人	324	283	262	334															
		女子学生数	人	36	21	48	50															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	2	0	3															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	320	320	320	340															
		入学者数(B)	人	324	283	262	334															
		女子学生数	人	36	21	48	50															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	2	0	3															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.01	0.88	0.82	0.98															
	収容定員等	収容定員(C)	人	1,320	1,320	1,320	1,340															
		編入学定員	人	20	20	20	20															
		在籍者数(D)	人	1,377	1,283	1,204	1,187															
		編入学者数	人	9	14	8	5															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	0.97	0.91	0.89															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	316	290	307																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	65	56	58	35															
		授業科目の単位数	単位	389	349	297	223															

大学名	久留米工業大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	320	320	320	340															
		入学者数	人	324	283	262	334															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	320	320	320	340															
		入学者数(B)	人	324	283	262	334															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.01	0.88	0.82	0.98															
	収容定員等	収容定員(C)	人	1320	1320	1320	1340															
		編入学定員	人	20	20	20	20															
		在籍者数(D)	人	1377	1283	1204	1187															
		編入学者数	人	9	14	8	5															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	0.97	0.91	0.89															

４.外部資金の状況（全学）

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況	申請−5年	申請−4年	申請−3年	申請−2年	申請−1年	選定			増員										
項目 / 単位																			
外部資金獲得額 / 千円	17,535	25,113	12,049	62,292	48,673	91,246	83,372	96,818											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	30,441
本事業による助成金の額(F)	千円	170,000
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	34,691

特記事項